

平成27年度 地域懇談会の結果概要

参考資料4

1 開催日時等

方 部	開催月日	場 所
県北地方振興局	平成27年7月9日	中町ビル（福島市）
県中地方振興局	平成27年7月28日	県郡山合同庁舎
県南地方振興局	平成27年7月3日	県白河合同庁舎
会津地方振興局	平成27年7月31日	県会津若松合同庁舎
南会津地方振興局	平成27年8月4日	県南会津合同庁舎
相双地方振興局	平成27年7月2日	県いわき合同庁舎
	平成27年7月7日	県南相馬合同庁舎
いわき地方振興局	平成27年7月29日	県いわき合同庁舎

2 出席委員等

方 部	所 属 等	氏 名	備 考
県北	福島商工会議所 専務理事	石井 浩	県民意見発表者
	本宮市子ども・子育て会議 委員	伊藤 千賀子	県民意見発表者
	川俣町小綱木地区自治会 副会長	佐藤 武二	県民意見発表者
	二本松市 地域おこし協力隊員 （ゆうきの里東和 勤務）	高木 史織	県民意見発表者
	公益財団法人仁泉会 総務部秘書室長	松川 弥生	県民意見発表者
	有限会社渡辺自動車 代表取締役 （保原ロータリークラブ 理事）	渡辺 英人	県民意見発表者
	福島大学人間発達文化学類 教授	中田 スウラ	審議会委員
	ふくしま子育て支援ネットワーク 代表世話人	樋口 葉子	審議会委員
県中	公立岩瀬病院 副院長兼看護部長	安達 恵美子	県民意見発表者
	農園café やいこばあちゃん	大平 美代子	県民意見発表者
	株式会社 オオバ工務店 代表取締役社長	大場 俊之	県民意見発表者
	郡山市PTA連合会 会長	橘 文紀	県民意見発表者
	三春グルメンチ王国 理事	山口 晋司	県民意見発表者
	向陽電気株式会社 東北事業所長	山田 和由	県民意見発表者
	日本労働組合総連合会 福島県連合会長	今泉 裕	審議会委員
	福島大学行政政策学類 教授	塩谷 弘康	審議会委員
県南	公益社団法人白河青年会議所 理事長	瀬谷 隆志	県民意見発表者
	梨本あぶらや 代表	梨本 清太	県民意見発表者
	白河商工会議所青年部 未来創造委員長	佐川 理沙	県民意見発表者
	JA東西しらかわ みりよく満点物語 店長	大寺 睦子	県民意見発表者
	株式会社山のごちそう本舗 代表取締役	増子 正代	県民意見発表者
	株式会社サミット 取締役生産統括部長	小室 耕一	県民意見発表者
	福島県商工会連合会 事務局長 （福島県商工会連合会会長 代理）	遠藤 秀樹	審議会委員
	有限会社社会津六名館 取締役	瀬田 弘子	審議会委員

会津	株式会社向瀧 取締役	平田 真智子	県民意見発表者
	喜多方市仲町商店街振興組合 理事長	長島 慶司	県民意見発表者
	西会津町 地域おこし協力隊員	仲川 綾子	県民意見発表者
	株式会社シグマ 会津総務部副部長	渡部 幸四郎	県民意見発表者
	あいづ農業協同組合猪苗代農青連 代表 (有限会社花雅 専務取締役)	渡部 雅幸	県民意見発表者
	道の駅からむし織の里しょうわ 駅長	舟木 容子	県民意見発表者
	公立大学法人福島県立医科大学看護学部 教授	高瀬 佳苗	審議会委員
	福島県森林組合連合会 理事	馬場 久一	審議会委員
南会津	株式会社ミルインターナショナル (映画監督・イメージクリエイター)	安孫子 亘	県民意見発表者
	湯ノ花区長 (民宿山楽 経営)	大山 義幸	県民意見発表者
	南郷トマト生産組合 理事	小山 貴広	県民意見発表者
	花泉酒造合名会社 広報	染谷 亜紗子	県民意見発表者
	檜枝岐村商工会青年部 常任委員 (檜枝岐温泉かぎや旅館6代目 尾瀬ガイド)	星 茂俊	県民意見発表者
	只見特産株式会社 代表取締役	横山 修一	県民意見発表者
	公益財団法人東北活性化研究センター調査研究部 専任部長兼首席研究員	大泉 太由子	審議会委員
	いわき地域環境科学会 副会長	和田 佳代子	審議会委員
相双 (いわき市開催) 〔双葉方部対象〕	広野まちづくり会議 委員	阿部 理恵	県民意見発表者
	一般社団法人ならはみらい 職員	新田 勇太	県民意見発表者
	富岡町災害復興計画(第二次) 検討委員	藤田 大	県民意見発表者
	川内村第四次総合計画 策定委員	遠藤 拓宏	県民意見発表者
	大熊町第2次復興計画検討委員会 委員	佐藤 京子	県民意見発表者
	元双葉町復興推進委員会 委員	山本 真理子	県民意見発表者
	朝田木材産業株式会社	朝田 英洋	県民意見発表者
	葛尾村農業委員会 会長	松本 敏美	県民意見発表者
	一般社団法人Bridge for Fukushima 代表	伴場 賢一	審議会委員
	日本大学工学部 准教授	土方 吉雄	審議会委員
	相馬双葉漁業協同組合 代表理事組合長	佐藤 弘行	県民意見発表者
株式会社只野商事 代表取締役	只野 裕一	県民意見発表者	
南相馬市総合計画審議会 委員	若松 蓉子	県民意見発表者	
南相馬市総合計画審議会 委員	高村 美春	県民意見発表者	
新地町復興計画 策定委員	伊藤 佳枝	県民意見発表者	
有限会社目黒鉄工代表取締役	目黒 博樹	県民意見発表者	
いいたてまでいな復興計画 推進委員	星 貴弘	県民意見発表者	
福島大学行政政策学類 教授	塩谷 弘康	審議会委員	
いわき地域環境科学会 副会長	和田 佳代子	審議会委員	
いわき	いわき農業青年クラブ連絡協議会 副会長	蛭田 秀史	県民意見発表者
	いわき商工会議所 青年部会長	志賀 晶文	県民意見発表者
	木村医院、特別養護老人ホーム楽寿荘理事長 いわき市医師会 副会長	木村 守和	県民意見発表者
	特定非営利活動法人ザ・ピープル 理事長	吉田 恵美子	県民意見発表者
	一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー 専務理事兼事務局長	渡邊 弘幸	県民意見発表者
	福島県漁協女性部連絡協議会 副会長	志賀 勝子	県民意見発表者
	福島県建設業協会 いわき支部長	佐藤 毅	県民意見発表者
	福島県立医科大学看護学部 教授	高瀬 佳苗	審議会委員
	特定非営利活動法人 いわき緊急サポートセンター 理事長	前澤 由美	審議会委員

3 地域懇談会で出された意見について

振興局	意見
県北1	高齢化率が30%を超える中で、医師の高齢化も深刻である。地域で高齢者を支えるまちづくりには行政の力が必要不可欠である。
県北2	耕作放棄地対策を含めた農村の活性化のために、市町村レベルで農地利活用の専門員を配置し、有効活用を図っていくべきである。
県北3	現在、県では健康調査等を実施しているが、子どもたちの将来の健康には不安があるため、子どもたちの将来への対策（医療保障等）も必要である。
県北4	子どもの遊び場を有効活用する観点から、未就学児の知・徳・体を刺激していく長期的、継続的、全員対象の事業を実施すべきである。
県北5	現場と行政・民間企業をつなぐコーディネーターが必要であり、不足していると痛感した。コーディネーターを育成するような事業（補助）も必要ではないか。
県中1	医師不足、看護師不足で緊急の受入が困難。独居老人や老老介護などの問題もある。地域包括ケアを作っていくと動いており、行政との協力が必要である。
県中2	災害が起きたとき、初動で動いているのは建設業であることを理解してほしい。また、災害時は市町村も県も一致団結でやっていく必要がある。
県中3	これまで震災復興関係のイベントは県内で多く開催されたが、一時の盛り上がりにとどまるように思う。やはり積み重ねが大事である。
県中4	万人受けするイベントよりも、何かに特化したイベントが必要であると感じる。
県中5	観光について、食と花を組み合わせるなど、連携が必要。地域の中、地域間、分野間の連携が大切だと思う。
県南1	これまで東京中心の経済成長は、外から資本を持ってきて回していた。そこから脱却して、地域の中で資本を回せるようにしていくべき。
県南2	県で行っている制度をどんどん企業に発信してほしい。企業からは、学生や子どもに対して事業を発信し、地元への定着につなげていきたい。
県南3	移住してきた若者がゼロからスタートできるよう、助成金など支援の形が必要であると感じる。
県南4	福島県の魅力は、自然と農産物だが、これは他の地域でも同じようなところはたくさんあるので、今までと同じやり方ではだめだと思う。
県南5	移住を希望している若者に対し、起業を支援するような仕組みがあると良いのではないと思う。
会津1	実際には地元にもたくさんの宝があり、それを教え、伝える教育というもの若い時に必要なのではないかと感じる。
会津2	地域の資源を生かしたまちづくりを進めるべき。町が活性化し、仕事が増えれば、若者の雇用やU・Iターンにつながる。
会津3	農業は儲かれば魅力的な産業になる。新規就農者の多くは経営基盤のしっかりした農家での研修を希望している。
会津4	観光に関しては、もう一度来てもらえるような、「おもてなし」という部分を強化していくことが必要である。
会津5	地元がPRしたいものと、観光客が知りたいと思っているものとのギャップが非常に大きいと感じる。改めて観光客の視点にたつことが必要である。
南会津1	子どもの遊び場が不足している。校舎等を活用した屋内で子どもが遊べる施設づくりを検討する必要がある。
南会津2	本年度の地域の人材育成事業に期待している。「ふるさと教育」が地域を支えるDNAとなるものとして重要と考えている。
南会津3	二ホンミツバチの地域振興には可能性がある。奥会津、南会津で連携して蜂蜜の商品開発をしていったらどうか。これだけの自然を抱えているのにもったいないと感じる。
南会津4	制度補助金とか一般に知られてないものが多い。県や市町村の担当者が地域の若者と協働したうえで、適切な提案をしてくれる機会が必要ではないか。
南会津5	檜枝岐のUターンの人の受け入れ先は役場などが主である。民間の若手がいらないため、新しいことができないことが課題である。

振興局	意見
相双（いわき） 1	個人的には、箱物の取り合いでは進まない。一つ一つの町で昔のように復興しろと言われても限界がある。
相双（いわき） 2	農地除染は6割強まで進んだが、地力がある部分を掻き取ってしまった。農業は、非常に長いスパンで復興策がないと進んでいかない。
相双（いわき） 3	風評の問題について、あおる表現もあり、不安をかき立てられることも多い。情報発信がまだまだ必要である。
相双（いわき） 4	双葉郡の再生は、8町村が1つになって成し遂げることが大事。各町でとりあっても、どこかが良くなるがどこかが悪くなる。
相双（いわき） 5	「企業との関連性のある技術を指導する学校」の整備を意識した、魅力的な企業の誘致などの「しごとづくり」をしていかねばならないと思う。
相双（南相馬） 1	介護職の方が非常に不足している。介護職員の養成学科を創設が必要であると感じる。
相双（南相馬） 2	「地元には世界に発信できる伝統文化がある」ということが、郷土愛を持つきっかけとなる。各地域の風土と歴史などを、小中学校においてしっかり教育していくことも大事だと思う。
相双（南相馬） 3	県内の漁場はとても幅広く、それぞれの地域によって状況が異なっており、意見の集約が困難であるのが現状。
相双（南相馬） 4	子どもの急病などに対するサポートがなく、対応に苦慮した経験がある。核家族が増加している中で、個人だけでなく地域ぐるみでサポートできる体制が必要と感じる。
相双（南相馬） 5	保育所に子どもを預けて働きたいと考えているが、時間帯の制限が障害となっている。短時間勤務やフレックス勤務の導入について、企業への働きかけを行うなど、子育て環境の整備が必要である。
いわき1	支援のスパンについて、県のコミュニティ交流員の事業は1年ごとの契約であるが、被災者支援は1年で完成できるようなものではない。長いスパンで計画的に支援できるような支援制度がほしい。
いわき2	いわき市の病院勤務医数は、臨床研修制度の開始により震災前の10年間で顕著に減り、その勤務医の減少に伴い診療科がさらに少なくなった。また、医師の高齢化が進んでいるのが現状。
いわき3	行政の広報誌等の信頼できる機関からの子育て支援に関する情報は、とても頼りになる。例えば、母子手帳を登録している方に対し、より詳細な情報を提供するなど、さらなる支援の充実を期待したい。
いわき4	派遣社員等で産休等の期間を一時的に埋めるなどして、女性が職場に復帰しやすい環境を整備し、安心して子供を生み育てられる環境整備や仕組みづくりを推進する必要があると考える。
いわき5	介護職員の不足が深刻である。新しい施設を開設しても、市内の他の施設で働いていた職員が移ってくる傾向が高く、職員総数は変わらずに、従来からある施設の規模が縮小してしまっているのが現状。